

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市高麗町22-16
記入者名 (管理者)	森島重子
記入日	平成 20 年 6 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者様が地域に密着した施設として、地域の中で生活していると感じていただけるよう、日々「やさしさとぬくもりでつつみ、地域と共にやすらぎのある施設を目指します」の理念をモットーに朝・夕の申し送りや毎週木曜日にある定例会などで、理念に沿った話し合いを行った</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の生活の中、朝夕に目にする、玄関、リビング、スタッフルームなどに掲示し、職員のネームプレートに記入してあり、実践していく上で常に、理念について向上心を持って取り組んでいる。又、今年に入居者様が高齢になられ、介護技術の質を高めていく上で、基本方針の見直しをし、作成している</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>毎月1回ご家族にやすらぎ通信を発行し伝えている。また地域に向けて広報誌を発行し、配布を行い、理解して頂けるよう取り組んでいる</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域の方が、散歩や病院への往復の際、笑顔で挨拶や声掛けをして下さるようになり、気軽なお付き合いが出来るようになった。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>施設の前に公園があり、週一回地域の方が掃除をされる、その際できる範囲で、道路の掃除に参加している、又、町内会に加入し、個別のボランティア活動の受け入れなど行い、地域との交流に努めている。学校行事や公民館での行事に参加させていただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が「親が認知症になりグループホームが近くにあるが、どのようなところか見せて欲しい」、また、「どのように接してよいか分からない」と相談に来られる方もあり、気楽に来訪していただき、入居者様とふれあい、職員と話し、認知症への理解を深めて頂けるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で、自己評価にて振り返り、外部評価を受け、改善事項等について検討し、施設運営、サービスの向上に努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を活用し、前回の会議で取り上げた検討事項や懸念事項について経過報告し合い、サービスの向上を図っている。ご家族の協力もあり、行事等が充実してきている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談の受け入れ・職場体験学習などの場として積極的に受け入れている。又、市の福祉課の職員・地域包括センターに、相談し助言を頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を一人利用されているが、いろいろな状況が考えられる為、研修で学ぶ機会を持ち、後見人と連携をとりあい支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・ミーティングなどで、お互いの言動に注意を払い、防止に努めている。虐待防止法の理解・浸透に向けた取り組みを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受けた際、事前見学していただき、当施設だけではなく他の施設の見学もすすめ、本人にあった施設を選んでいただくよう助言を行っている。再度、来訪時、契約書を配布し、契約の際には読みあわせを行い時間を掛けて説明を行ない、理解・納得の上サインをいただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や態度などからその思いを察する努力し利用者は人生の先輩であり、お客様であるとの思いを忘れることなく、利用者本位の運営を心掛けている。その時々不安、意見等は、その都度話し合いを行い、特定の職員の中に埋もらせないようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回家族交流会を持ち、要望や、意見を伺い日常のケアに生かして行けるようにしている、また、毎月1回ご家族に通信を発行し、現在の健康状態・職員の異動などを報告、行事の際の写真も掲載している。また金銭管理は、ご家族の来所時に出納帳の確認をいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関に、苦情箱を設置し、相談窓口・市や第三者委員の連絡先もリビングの入り口に掲示している。また、訪問時・手紙・電話、にて、常に問い掛け、何でも話して頂けるような雰囲気作りに留意し、出された意見、要望等はミーティングやその都度、話し合い、早急に回答できるように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会・申し送りなどを利用している。また日ごろからコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけたり、聞き出したり、其の都度話し合っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者のペースに合わせた暮らしをできる限り支えられるように起床時や就寝時、入浴時、など臨機応変に対応、朝夕のバイタルチェックにより、体調把握し、日課の調整を行っている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在職員の異動がなく、利用者様も落ち着いた状態で生活していただいているが、移動などがあった場合、基本的には馴染みの職員が対応するようにしているがやむを得ない場合の離職の際は時間を掛けて引継ぎを行い、違和感なく利用者様に受け入れていただけるよう、慣れた職員と同行し対応するなどの工夫をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士が掃除・介護その他の気づきに関して、その都度話し合い、早急に対応している。また、定期的に内部研修を行い、積極的に外部研修に参加している。研修報告は毎週の定例会の際、発表、報告している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の施設との研修会や親睦会などで、交流の場を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。他のグループホームとの交流も積極的に行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレス解消の機会として職員の親睦会を作っている。また 管理者同士の悩みなどお互い相談し合い、いつでも上司に相談に乗ってもらえる状況である。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者・管理者・職員同士で悩みなどの相談に乗り、職員の向上心を持って笑顔で働けるよう職能評価を持っている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用については、事前に利用者様を訪問し、生活状態、心身の状態を把握し、利用者様が不安なく入居できるように、また、職員が利用者様に受け入れられるような関係作りに勤めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴する姿勢で、話を伺い、施設に対する不安等十分受け止め、信頼関係を作っている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括センターや他の事業所のサービスにつなげるように対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様やご家族様に事業所を見学していただき、他の入居者様・職員との交流を図るなどして、納得していただき、安心して、生活を開始していただけるよう努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、普段から教えてもらう場面が多く、支援する側・される側という意識は持たず、共に支えあえる関係作りに留意している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、利用者様の日々の出来事や気づきの情報を共有し、利用者様を支えていくための協力関係を保ち、同じ思い出支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の状態をこまめに報告し相談すると共に、御家族・利用者様の思いや状況を見極め、外出や外泊と一緒に過ごしていただくよう進めたり、行事に御家族を誘ったりしながら良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、親戚の方が気楽に来訪したり、継続的に交流できるように働きかけている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が支えあっておられる関係性について、情報把握に努め、日々心身の状態、感情変化することもあるので、職員が注意深く見守り、調整役となり支援している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	サービス利用が終了された後も、電話や面会に行くなどしている。またいつでも訪問していただけるよう声かけし、相談等受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者様の行動や表情・言動の中から訴えの真意を察しとられるよう職員一人一人が把握できるよう対応し、同じ方向性で支援できるように努めている。	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	御家族や利用者様自身の話を傾聴し親戚・知人の来訪時にその人のライフスタイルや価値観など過去の情報を得られるように努めている。	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	朝と夕にバイタルチェックを行い、一人一人の体調管理と生活リズムの把握に努め、できることを一つでも多く発見できるように努め残存機能をいかした支援をしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人がその人らしく暮らせるよう、利用者様・御家族の要望を伺い計画を作成し、スタッフでの意見交換・モニタリング・カンファレンスを行い、介護計画に反映させている	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画の遂行状況を評価すると共に、スタッフが記録する個人記録・業務日誌・申し送りによる状態の変化状況、利用者様の状態や家族の要望に応じて見直しをその都度行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として、食事摂取・水分摂取・服薬・排泄・体重・バイタルチェック等を記入し、業務日誌・申し送りなど勤務開始時に確認を義務付け、情報の共有化を図り、介護計画の見直し評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関または利用者様・御家族の希望するかかりつけ医との連携を図り、受診の送迎・付き添いの支援は臨機応変に対応している。御家族・利用者様の満足度が高められるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様と地域とのさまざまな接点を見出し、地域の中でその人らしく生活できるように、民生委員・消防・警察等の意見交換の場を設定したり、利用者様との関係があるボランティアへの呼びかけをしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の希望に応じ訪問理容サービスを利用いただいたり・アニマルセラピーやボランティアへの呼びかけをしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	紙おむつの支給申請等、地域包括支援センターと協働し、活用できるサービス等ないか相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外のかかりつけ医での医療を受けられるよう、御家族と協力し、通院介助、もしくは訪問診療を受けられるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の漏洩防止に努め、秘密保持の徹底を図る為、職員全員の勉強会やミーティングを開き、職員の意義向上を図ると共に管理者が日ごろの言動を点検するようにしてプライバシーに配慮している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者様と過ごす時間を通して、利用者様の希望・関心・嗜好を見極めそれを基に、複数の選択肢を提案して利用者様が御自身で決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のスケジュールに利用者様をあわせず、その人の生活リズム時間に配慮し、そのときの気持ちを尊重して、できるだけその人らしさを大切にした支援を行っている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様の馴染みの理美容院で、希望にあわせたカット・パーマをしてもらえるよう支援したり、来訪していただくなどして支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや苦手なもの・アレルギー食材・その日の健康状態などを把握し、利用者様との会話の中からメニューを決めたり、旬のものを取り入れ、食事が楽しみになるようにしている。利用者様が出来ることは、お手伝いしていただくようお願いしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様の健康状態・時間・場所・申し出に添いながら、他者への配慮を考慮し、楽しんでいただくよう支援している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様の行動・時間・習慣を把握し、御自身の生活リズムに合わせて支援し、気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の希望に沿った入浴をしていただいている。ゆっくりしたい方にはその方の時間で入浴を楽しんでいただくよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を託し、生活リズムを整えている安心して気持ちよく過ごせる環境づくりに努め、ゆっくりした気分で、休んでいただけるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下膳やお膳拭きやテーブル拭き・洗濯物のたたみなど利用者様のできる事をお手伝いしていただき、役割を持って、楽しく生活していただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を遣う場面を作るなどして支援している。希望や力に応じて、買い物の際に靴や洋服を選び自身で購入していただくこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	目の前が公園があり、通院の往復の際希望の時間に散歩に出かけるなど、日常的に外出して頂けるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人の思いや願い事がかなうよう、御家族と相談し、協力を得ながら実現に向けて取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	人目を気にせず御家族や御友人に電話がしやすいような雰囲気作りをし、他者に聞こえないように配慮している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族や知人等、気楽に遊びに来れる雰囲気作りを心がけ、遠慮なくゆっくり過ごしていただくよう配慮している。		
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会や業務日誌・申し送り・ひやりはつとなどで、職員同士や自分自身のその一日にケアを振り返り、本人の気づかない部分で身体拘束につながる行為を行っていないか、話し合う時間を持っている		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関に鍵を掛けている時間帯はあるが、希望にあわせて外出が行えており、ご家族にも理解いただいている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して職員は利用者様を見守りやすい位置にいて、同じ空間で記録等の作業をしながら利用者様の見守りを行い、夜間はいつでも対応できるようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状況に合わせて、全てを取り除くのではなく保管管理が必要なもの、利用者様が使うときに必要なもの等に分け管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の共通の認識を図って、ひやりはつとを記録して、一人一人の状態から予測される危険性を検討し、事故防止に取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備し、職員研修等で周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	設備会社・消防署の立会いのもと昼夜設定での避難・消火器の使用方法や避難路の確保等の訓練を行い、消防設備の点検も定期的に行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクについては状況変化を把握し、御家族等に対応策をその都度説明し理解を得るようにしている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝夕のバイタルチェックを行い、会話・朝食の摂取量・顔色などからもその日の心身状況の変化を把握し、記録をしている。異常の見られるときは、速やかに主治医へ情報提供を行い指示を受け、場合によっては受診もしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人服薬ファイルを作成し、職員全員で管理し、薬の処方や容量が変更になった時は、申し送りに記載している。朝・昼・夕・食間・眠剤など個別に袋に入れ管理し、服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できるか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材・乳製品・水分補給など、食材の工夫や利用者様がができる範囲での運動を働きかけ自然な排便ができるよう取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口の中を他人に触れられる利用者様の気持ちに配慮しつつ、その方の能力に応じた歯磨きの手伝いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好を把握している、献立・摂取量等を記入し、管理栄養士のアドバイスを受けている。水分量について、少ないと思われる方や、持病により水分を控えなければならない方など、水分チェック等行うこともある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成を行い、予防に努めている。職員研修等で周知徹底し、対応等についても確認を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷凍・冷蔵庫の食材の点検を頻繁にお行い、調理器具、台所の水回りの整理・整頓し、清潔・衛生を保つよう職員で取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節感を感じられるよう玄関前にはプランターに花を植え、利用者様・地域の方・来訪者の人の目で楽しんでいただく。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の置物を置き、リビングの入り口や室内・トイレに季節感のある飾り付けをしたり、花を飾って季節感を感じていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには自分の席があり、談話室にもソファがあり、それぞれに仲間との時間や自分だけの時間を過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた布団・枕や日用品など居室に持ち込んでいただき、居心地の良い部屋作りをおこなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷房は利用者様の様子を見ながら調整し、空気の入れ替えも頻回に行っている。臭気にも気を配り、清掃等行っている。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりや椅子を設置し、安全で自立した生活が送れるよう工夫捨ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かりやすい表示や居室の目印など使い、自立した生活が出来るように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	目の前に公園があり、プランターの世話をいただいた後、公園回りの清掃を行うなど、楽しんで活動している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人個性を生かした家庭的な日常生活を過ごしていただく為、利用者様のことをいつも気に掛け、小さなことでも、次のケアにつながるようにと考え、本人・家族・職員一緒に悩み・笑い・楽しみ共に取り組み、やさしさとぬくもりで包みやすらぎのある施設を目指す。